

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	通信会社（企画 担当）	販売量の動き	・個人、法人を問わず通信機器の秋の新商品の引き合いが想定以上に多い。特に都市部の量販店での販売が好調である。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	販売量の動き	・ファッション系の店舗の売上がわずかながらも前年実績を超えていることから、若干ではあるが景気の回復感がある。観光は日本人観光客がいまだに低迷しているが、外国人観光客が順調に推移しており、好調を維持している。
		一般小売店〔土 産〕（経営者）	来客数の動き	・9月は道央圏で90万人の避難勧告が出されるほどの集中豪雨があったが、それ以外は秋晴れの日が続き、豪華客船の入港や近隣自治体での男性アイドルのコンサート、外国人観光客の入込などのプラス要因もあり、売上は前年比107.5%と伸びた。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・9月の来客数がほぼ100%と横ばいでの推移ながらも秋物衣料を中心に定価品の売上が回復している。消費税増税のあった春から、季節が変わったことで購買意欲が上向いている。ただし、外国人による売上が前年比で30%近い伸びを示すなど、まだまだ外国人が全体の売上をフォローしているのが実情である。
		百貨店（販売促 進担当）	来客数の動き	・来客数が戻りつつあるなど、徐々に回復している傾向がみられる。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・消費税増税の影響を引きずっていた6月と単純な比較はできないが、3か月前との比較で販売量が9.8%程度上回っている。
		スーパー（役 員）	お客様の様子	・天候が平年並みで推移したこともあり、秋物商材の売行きが良かった。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・市内では店舗の競合が増してきており、売上、来客数ともに影響を受けている。一方、市外の店舗に関しては漁業が好調なことから売上が伸びている。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・水産関係の水揚げや観光客の入込が良い。催事では高額商品も売れている。
		自動車備品販売 店（店長）	来客数の動き	・9月の来客数が前年並みに回復した。ただし、消費税増税後の価格の高さが定着したことで低単価商材を中心に動いている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・観光、ビジネスとも、国内客については堅調に推移している。アジアからの来客は中国本土からの直行チャーター便の効果などで好調である。
	旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・前年と比べて、東京便の運行機材が小型化したため、供給座席数が減っており、当地を訪れる観光客も、当地から出発する旅行者もともに伸びしるがない。ただし、現状、ビジネス需要及び観光需要が減っているわけではない。	
	変わらない	商店街（代表 者）	単価の動き	・客の反応は前月と変わらない。
		一般小売店 〔酒〕（経営 者）	販売量の動き	・販売量がやや伸びていることもあり、今月の売上は良かったが、その理由はよく分からない。客単価については、高額商材の動きは相変わらず良いが、全体の数字を押し上げるまでには至っていない。
		百貨店（役員）	販売量の動き	・9月は天候に恵まれ、気温も平年並みで推移するなど、極端なマイナス要因がなかったにもかかわらず、厳しい結果で終わりそうである。客単価が下落しており、ぜいたく品への出費が抑えられている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・直近の数か月の動向として、週末の来客数が減少する傾向に変化がみられない。商圏が広域のため、ガソリンの価格高や高速道路料金の休日割引の縮小が影響している。
		スーパー（役 員）	来客数の動き	・ここ3～4か月の来客数の動きをみると、8月がやや増加したものの、9月は8月から1.5%の減少となっている。客単価は前年から3.5%上昇し、商品単価は前年から5.5%上昇しているものの、売上は前年比99.3%と厳しい状況が続いている。
		コンビニ（エリ ア担当）	お客様の様子	・7～8月と比較すると、前年比は回復基調にあるが、消費税増税前の水準には戻っていない。特に、たばこや酒などの嗜好品の売上が前年から5%以上減少している。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・消費税増税以降、来客数の回復が遅れている。たばこの売上也引き続き減少しており、影響が大きい。

	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・中間層の来客が少ない。
	家電量販店(経 営者)	販売量の動き	・消費税増税後の反動減がいまだに続いている。
	家電量販店(店 員)	来客数の動き	・商材の下見に来て、それが購買に結び付いていない。今秋に予定されている電気料金の値上げを気にしているのか、省エネ家電を探している客が多い。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・RV車の販売量が上向き傾向にある。低燃費の人気車種は好調を維持している。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・3か月前と比べて、売行きはあまり変わらない。サービス部門に使う金額もそれほど変わらず、財布のひもが緩んだという感じはない。
	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・新車、中古車とも、受注量が上向いてこない。
	その他専門店 [医薬品](経 営者)	それ以外	・顧客の高齢化、年金の目減り、若者の量販店志向など、取り巻く環境にマイナス要因が多すぎる。悪い流れは変わらない。
	その他専門店 [ガソリンスタ ンド](経営 者)	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしているため、客の節約志向が強い。
	高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・客の金払いがそれほど良くない。景気の良い話ぶりの客もみられない。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・9月は連休や週末の売上が上がり、足を引っ張った。料理教室では、以前人気だったIH調理器を使った講習がなくなり、ガス調理器を使った講習が増えている。電力事情の不安を受けて住宅ではガスへの切替えが進んでいるようだ。
	タクシー運転手	来客数の動き	・9月は雨の日が多かったため、当社のタクシーの売上は前年を若干上回った。ただ、夜の繁華街の入出は増えていない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・前月から今月にかけての売上はほぼ前年並みであり、変化がみられない。
	通信会社(社 員)	お客様の様子	・景気の向上は、売上や収入の増加と関連付けることができるが、得意先に話を聞いても状況は以前と特に変わっておらず、悪いままで推移しているという声が相変わらず多い。
	観光名所(従 業員)	来客数の動き	・9月25日現在の利用客数が前年比103%とほぼ変わっていない。
	美容室(経営 者)	お客様の様子	・数か月にわたり売上が安定しており、大きな変化がみられない。
	美容室(経営 者)	お客様の様子	・極端な変化が感じられない。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・食品などは徐々に売上が回復しているようだが、住宅や自動車など、高額商材は買い控えが続いている。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・客の動きが鈍い。
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、来客数が減少している。セールを実施しても客の反応が鈍い。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・消費税増税の影響は薄れてきているが、9月に入り、来街者数が減少している。商店街の駐車場において管外ナンバーの車が少なく、周辺の観光地に分散しているものとみられる。また、地域住民が商店街を訪れる際の主要交通手段の1つであるバスの乗降客数は前年と比較すると平日の減少が目立っている。全体的に、日用品などを除き売上を落としている商材が多い。
	百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・秋物の洋品雑貨の動きが婦人物、紳士物とも良くない。婦人物はニット、ジャケットの動きがまだ本格化しておらず、紳士物もスーツ、ビジネス関連の売上が前年比90%前半となっており、非常に厳しい状況にある。高額商材の動きも目立っていない。
	百貨店(販売促 進担当)	来客数の動き	・例年であれば、夏から秋への季節の変わり目で秋冬物衣料が動く時期だが、今年はなかなか売上が増えてこない。電力料金の再値上げに関する報道後、客の生活防衛意識の高まりから、徐々に来客数、買上客数が減少傾向にある。
	衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・来客数が少ない。

	家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費税増税の影響が予想以上に長引いている。特に、テレビ、冷蔵庫、洗濯機などの大型家電の売上が6か月連続で不調である。	
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・ランチタイムは外国人客、観光客の利用もあり、満席になるが、ディナータイムは客単価の低下に加えて、来客数の減少もあり、悪い状況にある。全体の売上は前月に続き、前年を10%ほど下回っており、対策が必要になってきている。	
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・貸切バスの新たな運賃・料金制度の導入により運賃が上昇したことで、団体旅行のツアー料金が上がり、東名阪方面からの観光客が激減している。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の販売量が前年を下回っている。賃金のベースアップなどが騒がれた一方で、法人については需要が上向いてこない。	
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・円安のため、海外旅行のお得感が薄れており、海外旅行者が減少している。また、ファミリー層の旅行者も減少している。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・旅行の申込数が減少傾向にある。特に、海外旅行が不振であり、円安の影響を感じる。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・相変わらず景気の動向が見通せない不透明な状況が続いている。前月は、多少持ち直しの兆候も感じられたが、今月に入ってからは、また落ち込んでおり、売上も前年を10%程度下回っている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月に入って観光客の減少などから、少しずつ売上が減っている。前年と比較しても約2%の落ち込みとなっている。特に、夜間のタクシー利用が減少している。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・8月の大雨による風評被害もあり、輸送量が前年を下回っている。	
	住宅販売会社（役員）	単価の動き	・分譲マンションの単価が上昇していることで、客の購入意欲が明らかに低下している。普通の会社員では購入不可能な価格になりつつある。	
	悪くなっている	乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・客の決断力が鈍ってきている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている			
(北海道)	変わらない			
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月以降の回復が遅れている。	
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と同程度の受注量が入ってきているが、それ以上の動きはみられない。	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・天候不順、物価上昇などの影響により購買意欲がまだまだ高まっていない。東京などの大都市圏は上向きになりつつあるが、地方都市の回復にはもう少し時間が必要である。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築設計事務所では改正耐震改修促進法に基づく大規模建物の耐震診断業務が増えているが、新築建物の設計業務が少なく、総量としては増えていない。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・引き続き企業の設備投資意欲が高く、工事の引き合いが堅調に推移している。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・医薬品の輸送は順調だが、飲料品は低迷している。東日本地域が猛暑に見舞われなかったことが要因とみられる。	
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・第2四半期中であるが、計画に対して見込みを修正するような大きな変動はみられない。また、下期に向けて、ある程度状況を見通せている客先が多い。	
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が引き続き堅調に推移しており、景況感も変わらずにやや良い状況が継続している。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・物価の上昇に賃金が追いつかず、消費者の財布のひもは固い。堅調だった建設関連も人手不足と建築コストの増加で工事の進ちょく遅れがみられる。観光関連は外国人観光客が増えているが、天候不順の影響で国内観光客や道内観光客が低迷している。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の建築状況などから、3か月前よりも悪くなっていることは間違いない。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・最近、客の動向が慎重になってきている。	

	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年と比べて、受注量が若干減少傾向にある。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・一部の商材では品薄状態が続き、出荷調整を行っているものがあるものの、一般商材は受注が順調に確保できており、安定した販売量で推移している。
やや悪くなっている	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響が出てきている。
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税後の諸物価の高騰にともない、建築資材価格も上昇している。土地を購入し、建物を新築する客の割合も減少している。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連	-	-	-
(北海道)	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から2.2%増加し、55か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から5.3%増加し、55か月連続で前年を上回った。
やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の業種で求人数の減少がみられるものの、全体としては求人数の増加傾向が続いている。新規求人数は9か月連続で前年を上回っており、月間有効求人数は18か月連続で前年を上回っている。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・8月の就職件数が6か月ぶりに前年を上回った。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数に大きな変化がみられず、回復するような要因もみられない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・派遣、アルバイト、パートなど、非正規雇用の求人数は3か月前と変わっていないが、正社員の求人数が若干減ってきている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ガソリン価格が高止まりしているなか、電気料金の再値上げが実施されれば、個人はもちろんのこと企業にとっても相当な痛手になるため、先行きへの不安感から、求人活動の様子見ムードや広告の出し控えがみられる。一方、観光業界については、東南アジアからの観光客が増加していることで堅調な伸びをみせている。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・8月の新規求人数は前年を8.0%下回った。新規求職者数は前年を5.8%下回った。月間有効求人倍率は0.83倍となり、前年の0.81倍を0.02ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は44.2%と相変わらず低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数が前年を下回る業種が増えてきている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数は、6月以降、前年並みもしくは減少傾向で推移している。地方都市では決して景気が良くなっておらず、募集をしてもなかなか人が集まらないという状況にある。さらに、消費税増税や円安にともなう負担増と今秋の電気料金の再値上げがささやかれるなか、企業では先行きに対して楽観をできない様子が見られている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比91.8%と5年ぶりに前年を下回った。派遣、小売、運輸、飲食などの上位構成業種が軒並み落ち込み、特に小売は約3割の減少となった。ただ、売上2位の医療だけは、介護職などの慢性的な人員不足を背景に求人が3割増加した。
悪くなっている	-	-	-